

東京研修に行つて

今回の研修で、初日は最初、ディレクトフォースや笹川平和財団の方々との質疑応答や、義手を作っている近藤さんの、人生のことや義手についてのお話をいただきました。その後、企業訪問で品川にある三菱重工の本社に行きました。夜には仙台二高のOBの方が来てくださり、座談会が行われました。2日目は東京大学の見学に行きました。

近藤さんのプレゼンでは、近藤さんの学校生活のことや、どうして義手の製作をやろうとしたかという話がありました。近藤さんは小さい頃にアメリカのニューヨークに住んでいて、学校生活もアメリカで過ごしたそうです。日本に帰って来たときに日本の学校の生徒がアメリカの生徒のようにしっかり自己主張しないところにびっくりしたそうです。海外の大学にも行ったそうです。

ディレクトフォースや笹川平和財団の方との座談会で、最初の太田さんは三井物産で働いてたそうです。高校生活で大切なことは複数の夢について考え始めること、健康な体づくり、自分の夢を叶えるための勉強や体験だそうです。留学では日本、日本文化についての理解、留学先の国の通史を事前に学習することが大切だそうです。就職活動では、大人の、仕事に対する姿勢をしっかり理解することが大切だそうです。駐在経験から、会話を学び積極的なコミュニケーションを図ることや現地ならではの楽しみ方を探すことが大切だそうです。自分の幸せは、他人を幸せにすることで相手から跳ね返ってくるものだそうです。

二人目は村上さんです。TPPなどで海外と関わる仕事をされているそうです。

三人目は矢ヶ崎さんです。銀行員をされていて、海外との取引も行なっていたそうです。トランプとの取引も行なったそうです。グローバルビジネスの面白さは、国境を越えるスリル感や異文化への好奇心、日本の本社から離れて自由にのびのびと業務ができることだそうです。難しさは、異文化、習慣との相互理解の難しさや現地職員の忠誠心の確保の難しさ、第二次世界大戦の正負の遺産について考慮しながら仕事をする事だそうです。今までの面白いエピソードは、東南アジアの国では、お金を返してもらうように交渉していたら、相手の人が拳銃を出したそうです。トランプとも交渉したことがあるそうです。

座談会の後に品川にある三菱重工の本社に行きました。まず、一階にある展示室で三菱重工についての説明を受けました。僕たちは航空機に興味があるので、ガイドさんが三菱飛行機のMRJという日本初のジェット旅客機に重点を置いて説明をしてもらいました。MRJは日本刀をイメージしたスリムなボディや、特徴的なウィングレットの角度、座席を薄く作ることで客席の空間を広くした飛行機です。他の、同等の飛行機と比べると、燃

費が 20 パーセント向上し、騒音も少なくなり、より快適なフライトをすることができるようになったそうです。質疑応答では、すべての質問に丁寧に答えていただきました。航空機的设计、製作は主に名古屋で行われているため、実際に仕事をされている方から直接お話を聞くことはできませんでしたが、名古屋の工場の皆さんからの回答を紹介していただきました。お土産にはパンフレットや MRJ の模型などをいただきました。とても充実した企業訪問になりました。

夕食の後は、もと仙台二高の主に東京大学の生徒さんとの座談会がありました。東京大学のちょっとおかしい人の話があり、楽しかったです。テレビ番組に出ていた歌手について、どう思ふかなどと尋ねられたという話がありました。他にもエピソードがあり、とても楽しかったです。寮生活や学校の魅力などの話を聞くことができました。折り紙部に所属している先輩がいて、とてつもない作品の写真を見せてもらいました。勉強についても教えてもらいました。

二日目は、東京大学に行きました。

午前中は、東京大学の学生さんと一緒に駒場のキャンパスを回りました。正門をくぐり、中のロータリーに入ると一号館と呼ばれる、安田講堂に似ているような茶色い古めかしい建物がありました。その後、自習スペースを見ました。静かに勉強をするようなところもあれば、レストランのテーブルのようになっていて友達などと話しながら勉強をできるようなところもありました。その後、駒場図書館に行きました。とても広い図書館で、たくさんの種類の本があり、本を閲覧したり自習をするスペースがありました。本の他にも、昔から今までの新聞がまとめてあるものがありました。月別に大きな冊子になっており、歴史的な出来事がどのように新聞で人々に伝えられていたのかということを見ることができそうです。自習スペースは、飲食禁止でしたが、蓋つきの飲料が飲めて、それぞれの机にはコンセントがあり、涼しくて、しっかりとした机があり、勉強にしっかり集中できそうでした。図書館の後は、別な建物で東京大学の生徒によるワークショップがありました。将来の夢や、これから何をすべきかをみんなそれぞれ考えました。二人の学生さんから、高校生活で意識したことや、どのようにして志望校を東京大学にしたのかなどのプレゼンがありました。学力も大切で、具体的な目標がなくても、なんとなくでいいので目指して見て、大学に入ってから具体的にどのようなことを決めてもいいそうです。東京大学は進学振り分け制度があり、入学してから学力順に好きな学部に入ることができるため、1年間自分が何をしたいのかということを決めることができるそうです。こうして学部を決めることで、自分のしっかりとした目標ができて、勉強が多少うまくいかなかったてもモチベーションを保つことができそうだなと思いました。僕には東北大学に興味のある研究をしている先生がいて、いずれその研究室で研究活動をしたいと思っていましたが、進学振り分け制度を活用してもう一度自分は何をやりたのかということを決

くりと見直して見るのもいいと思いました。学生さんからは東京大学の魅力についてもお話がありました。進学振り分け制度を活用して入学後に好きな学部に入ることができるということ、大学への補助金が多いことで、研究費用が他の大学と比べて多く、より良い研究設備を買ってより精密な実験ができるということなどです。

午後は、安田講堂前に集合して、理系と文系に分かれて見学をしました。僕は理系なので、農学部の見学に行きました。はじめに教授から農学部全般についてのお話がありました。その後に研究室を見学しました。一つ目の研究室ではきのこの、木を分解することの研究をしていました。世界最高解像度の3Dの画像を見せてもらいました。たくさんの質問ができました。二つ目の研究室では魚の研究が行われていました。魚が体の中の塩分濃度を調節するということを学びました。魚の血液の塩分濃度は0.9パーセントなので、3.5パーセントの海水に住んでいる海の魚の血液の塩分濃度が上がってしまうため、常にエラから塩分を排出しているそうです。また、真水に魚を入れた時には、魚は頑張って周りの水にあるかすかな量の塩を取り込むそうです。しかし、魚の血液の塩分濃度に近い塩分濃度の水に魚を入れると、魚は体の中の塩分濃度を調節しなくてよくなるので、そのぶん体の成長にエネルギーを費やすことができ、より大きく成長するそうです。この現象を利用して養殖の時に、魚をより早く成長させることについての研究が行われていました。今回の東大企業訪問に参加して、夢を見つけて、追いかけることの素晴らしさを知ることができました。

本当にためになった研修になりました。ありがとうございました。普通の旅行では絶対に味わえない体験ばかりでした。学年全員で行ってもいいくらいです。本当にありがとうございました。